

女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築

(実施期間：平成 18～20 年度)

実施機関：お茶の水女子大学（代表者：羽入 佐和子）

課題の概要

女性研究者を支援するために、次の 3 つの計画を実施する。

計画(1) 女性研究者を取り巻く質的・量的環境の整備：

- a) 女性研究者支援メニューの提供
- b) 勤務時間 9 時から 5 時の徹底化
- c) 学内保育所の充実と隣接する独身寮の整備

計画(2) 女性研究者支援のための情報環境の整備：

女性研究者支援「情報バンク」の設置

計画(3) 女性研究者育成のための人的交流：

ロールモデルによる理工農系を目指す若い女性研究者の啓発及び活動の DVD 化

(1) 総合評価（所期の計画と同等の取組が行われている）

学長が中心となり、教職員の意識改革、女性教員比率の向上、啓発・広報活動に積極的に取り組み、採択機関の先導的役割を果たしている。女性研究者支援のために計画された取組はほぼ計画通りに実行され、他大学にはない特色ある取組もあり評価できる。9 時～5 時勤務の取組は極めて意欲的で、徐々に学内に浸透してきているが、「実行したいができない」という意見も多く、徹底化には至っていない。9 時～5 時勤務の取組が全学の意識改革に果たした役割は評価できるので、「実行したいができない」状況の分析を行い、全学的な取組として、教職員のニーズに基づく勤務時間の実現と、9 時～5 時勤務でも世界トップレベルでの研究成果を得られることの実証につなげることを期待する。

<総合評価：B>

(2) 個別評価

①目標達成度

取り組んだ計画は、ほぼ所期の目標を達している。しかし、意欲的な取組として当初より注目されてきた「9 時～5 時勤務の徹底化」については、選抜されたモデル研究者 5 名については 9 時～5 時勤務を実現したものの、学内アンケート調査によると「実施したいが全く実行できない」と感じる人の比率が 5 割もあり、徹底化には至っていない。現状の分析を行うとともに、採択コメントにあるように「9 時～5 時勤務でも世界トップレベルでの研究成果を得られること」に向けて、全学的な取組が行われることが望まれる。

②取組の成果

5 名の女性研究者を被支援対象モデルとして種々の支援策を検討し、研究支援の仕組みについて丁寧なフォローアップを実施している。2 名の研究補助者の配置やメンター制度、学内保育施設の改善等、子育て支援策の策定により女性研究者が子育てと研究を両立できる仕組みを構築していることが高く評価できる。また、公募や会議時間の設定などの学内制度改革、全学的な意識改革等の機関のシステム改革にも取り組んでいることは高く評価できる。

③取組の妥当性・効率性

モデル研究者を選抜して手厚い支援を行った結果、勤務時間短縮にもかかわらず学問的成果を維持できることを実証している。9時-5時勤務の徹底化という意欲的な目標に掲げ、取り組んだことは高く評価できる。しかしながら、実践の中から、実際に9時-5時勤務を徹底しようとした場合に生じる問題点や解決すべき課題などを学内でよく議論し、更なる改善策を提示するには至っていないため、今後の取組を期待する。特に、9時-5時勤務制度の研究職への適用の妥当性については、多面的な検証を行うことを期待する。

④波及効果

職場における女性支援のあり方をチェックするために作成した独自の指標「お茶大インデックス」や、種々の具体的な子育て支援策等は他機関への波及効果が期待できる。また、シンポジウムや講演会等の多数回開催、広報誌やロールモデルDVDの作成配布、米国からの視察受入れなど、非常に活発な情報発信が行われたことは高く評価できる。さらに、作成したDVD等の資料は関連機関に配布するだけでなく、個人への配布やウェブ配信など個人レベルにも届きやすい方策の検討も期待する。

⑤実施体制の妥当性

学長の強いリーダーシップのもと、学長直属のCOSMOS推進室や女性支援室を設置して、全学的に推進している。常勤の教授を核としたチームを作り、既存の支援システムと連携した取組を推進したことは高く評価できる。

⑥実施期間終了後における取組の継続性・発展性

COSMOS推進室や女性支援室を中核にして、全学的な取組を更に継続・発展させることを目指し、課題終了後も研究者の支援を多額の学内予算で継続している。9時-5時勤務の検討により明らかになった「実行したいができない」という状況を十分解析し、大学全体の取組として発展させ、優れた環境を構築することを期待する。

(3) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組の成果	取組の妥当性・効率性	波及効果	実施体制の妥当性	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
B	c	a	b	a	a	b